

神戸鹽務局

市村出張所之部

神戸鹽務局市村出張ノ部

第一章 鹽田ノ位置、方法及附近ノ地勢、地形

當鹽田ハ福良町港灣ノ東ニ位シ東西ニ短ク南北ニ長ク堤防四周セル一區域ニシテ西方一帯海ニ臨ミ北ハ福良町人家ニ接シ耕地次第第二高ク山岳又遠カラス字長見山谷ノ小流小川ヲ爲シ海ニ注ク南ハ溝渠ヲ隔テ耕地ニ連リ人家山麓ニ點在シ近ク山岳ニ接ス東ハ溝渠ヲ隔テ道路ニ連リ附近一帯凡テ平坦ナル耕地ニシテ只二ノ溜池道路ニ接續セルノミ而シテ其ノ漸ク距ルニ從ヒ土地次第第二高ク山腹ニ及フ字長谷山川ノ小流下テ溝渠ニ注入ス之ヲ要スルニ西方港口ヲ除クノ外ハ遙カニ山脈圍曉シ次第ニ低下シ鹽田附近ニ至リ漸ク平坦ナル土地トナリ耕地家屋連續シ森林ナク河川池沼ノ大ナルモノナク高低又甚シカラス且ツ山谷深カラサルヲ以テ排水容易ナリ港灣ハ良港ニシテ西北ノ風ハ常ニ撒砂乾燥ニ適ス

第二章 鹽業ノ沿革

元錄八年坂東家四代ノ祖半左衛門ナル者(現主半十郎ヨリ九代前)藩主蜂須賀候ノ許可ヲ得テ海濱ノ埋立ヲ爲シ初メテ鹽田壹町四畝歩ヲ開墾セリ繼テ同十二年更ニ三町五畝歩ヲ擴張シ阿波國撫養ノ人ニテ製鹽ノ業ニ長スル者某ヲ雇聘シ地方貧民ヲ使役シ大ニ斯業ヲ傳習セシメタリ降而文化年中半十郎ノ祖父半左衛門阿波、讃岐ノ鹽田ヲ巡遊シテ得ル所アリ一意改良ヲ計リ大ニ鹽田ノ品位ヲ高メ產額爲メニ増昂ヲ得ルニ至リシト云フ超テ安政元年海嘯ノ災ニ罹リ過半ノ土壤陷落ノ厄ニ遭ヒ一時斯業ヲ廢セントスルノ悲境ニ至リシモ僅ニ其命脈ヲ維持シ苦心經營明治十年遂ニ現況ニ復シタリ然ルニ製鹽ノ量尙多カラス爾後星霜ヲ經ル五ヶ年刻苦精勵効始メテ舉リ明治十四年倍舊ノ產額ヲ得ルノ域ニ進ミ以來始メテ著シキ變遷ヲ見スシテ今日ニ至リタリ藩政時代ニ於テ保護獎勵ヲ加ヘタル事績大要左ノ如シ

(一) 鹽田構成ノ際堤防築造費補助トシテ銀札六貫目ヲ與ヘタリ當時銀札六貫目ヲ以テ玄米百石ヲ購買スルヲ得タリキ

- (一) 竈屋建築用竹木、用材及水閘ニ要スル樺木ノ類ヲ付與シタリ尙鹽田、堤防築造ニ要スル器具ノ類ヲ貸與セリ
- (二) 山林反別凡ソ貳百町歩ノ保管ヲ命シ毎年輪伐ノ木材松葉ヲ廉價ニ拂下ヲ爲シ燃料ノ費用ヲ少ナカラシメタリ
- (三) 鹽田周圍ノ河川浚渫ノ際ハ補助金若干ヲ付與シ其ノ費用ヲ輕カラシメタリ

第三章 製鹽方法

甲 鹹水採收

一 鹽田ノ種類及面積

(一) 入濱鹽田

(二) 面積 鹽田 四町參畝拾九步

内四反貳畝步 潮通溝

外百參拾坪 附屬建物敷地反別

此 内 譯

鹹水貯藏場

桁行三間半

壹棟

桁行七間半

一棟

總坪數五拾五坪七合五夕

釜 屋

桁行五間五分

壹棟

同

同 三十五坪七合五夕

鹽 納 屋

桁行八間

壹棟

同

同 拾六坪

石炭納屋

桁行七間半

壹棟

同

同 貳拾貳坪五合

二 堤防ノ面積、高低及築造材料

南北ノ長サ百六十五間東西ノ長サ六拾間幅約參間ニシテ此總面積六百七拾五坪其ノ高

サ約五尺ニシテ此ノ築造材料ハ山土、土砂、石ナリ即チ中心ニ海水面ヨリ約一尺ノ高サニ山土ヲ以テ積ミ固メ内外ニ堅牢

ナル石垣ヲ築キ以テ海水ノ浸入及破壞ヲ防キ其上ニ通常ノ濱土砂ヲ敷キ草芝ヲ生セシム

三 鹽田内溝渠ノ面積

面 積 四反貳畝歩 長 一、五七五間 幅 八尺 深 一尺

延長ハ右ノ如クニシテ敢テ深淺ノ筒所ナク各溝渠間ノ距離ハ何レモ約七間ニシテ暗渠等ナシ

四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ノ構造、面積、箇數、大小、高低配置、施設 當鹽田ハ撒砂ヲ臺ニテ瀘過スル裝

置ナリ其ノ構造ハ先ツ臺ヲ設クヘキ場所ニ四面厚サ約四寸高サ五寸ノ粘土ヲ叩キ付ケ其上ニ松木ヲ以テ製シタル厚サ一寸五分高サ一尺長サ五尺橫幅四尺八寸ノ箱臺(二雙臺又ハ夫婦臺ト云フ)ヲ据ヘ其内ニ泥土ヲ敷キ上ニ方壹寸角ノ松木ノ根太七個ヲ八形ニ

置キ小ナル竹片ヲ一寸明ニ并列シ次ニ鹽俵四枚ヲ敷キ詰メ尙上ニ小麥藁ヲ以テ編ミタル菰ヲ敷キ臺ノ外側前面ノ地盤ニ圓形ノ穴ヲ堀リ其ノ穴ニ桶ヲ埋メ以テ鹹水ノ瀘出ヲ受溜スルノ構造ナリ(圖面參觀)而シテ壹臺ノ面積縱四尺八寸橫四尺五寸

ニシテ其ノ個數三百八十八何レモ高サ一尺二寸大小ナシ約壹畝歩ニ壹臺約貳畝歩ニ貳臺(貳雙臺又ハ夫婦臺ト稱ス)ヲ配置シ壹臺ノモノ九拾ヶ所貳臺并列ノモノ百四十九ヶ所ニ各約七間ノ距離ヲ存シテ施設セルノ組織ナリトス

五 撒砂(鹹砂)貯藏裝置、構造、大小、面積及撒砂(鹹砂)ヨリ鹹水ヲ採取スル方法 撒砂ヨリ鹹水ヲ採取スルハ前日鹽田

ニ撒布セル砂ヲ引ニテ縱橫四方ニ搔キ均シ太陽ニ乾燥シ引板ヲ以テ引均シ然後鹽田中ニ設ケアル汐通溝ノ潮水ヲ掛杓ヲ以テ掛ケ均シ再ヒ潮水ヲ打掛ケ太陽ニ乾燥シ引ニテ爬キ均スコト都テ三回ニシテ終ル之ヲ持砂ト云フ

此ノ砂ヲ杓エテリニテ搔キ寄セ濱臺ノ中ニ入レ受壺(漢垂桶ト云フ)中ニ前日受溜シアル二番垂潮ヲ掛ケ以テ鹹水ノ受壺ニ垂下スル間ニ左ノ操業ヲ爲ス

濱臺ノ側ニ備ヘ置キタル替砂ヲ木鍬ヲ以テ散布シ引板ニテ引均シ潮水ヲ掛ケ置キ次ニ臺中ノ砂(鹹水ヲ採取シタル跡砂)ニ荷桶ヲ以テ潮水ヲ汲ミ込ミ二番鹹水ヲ垂下シ置キ次回持砂ノ準備ヲ爲ス之ハ翌朝ニ至リ臺ノ中ナル垂槽ノ砂ヲ壺堀鍬ヲ以テ堀出シ臺叩

キニテ簣ヲ叩ク然ル後前ニ垂ラシタル受壺中ノ鹹水ヲ藻垂杓ニテ土樋ニ汲込ムトキハ土藏ノ側ニ箆メ込ミタル土桶ノ中ニ集リ劔釣瓶ヲ以テ瀘シ臺ニ注入シ更ニ土藏ニ流シ込ミ貯藏ヲ爲スノ順序ナリ(圖面參觀)

六 鹹水輸送装置ノ構造、面積及輸送ノ方法 南北ニ通スル二線ノ土樋ヲ布設シ貯藏場ノ傍ニ貳個ノ桶ヲ埋メ置キ二個ノ跳釣瓶ヲ仕掛ケ瀘シ台ヨリ更ニ貯藏場ニ流シ込ムノ構造ニシテ其ノ輸送ノ方法ハ先ツ藻垂桶ニ溜置シアル鹹水ヲ藻垂杓ニテ土樋ニ汲ミ込ミ其ノ流レテ篋メ込ミタル土桶ニ集注スルモノヲ刎釣瓶ニテ酌ミ上ケ土樋ヲ流通シテ瀘シ臺(構造ハ撒砂瀘過ニ全)ニ入り更ニ土樋ヲ通シテ貯藏場ニ流入スルノ順序ナリ而シテ其ノ面積左ノ如シ(圖面參觀)

鹽田内土樋ノ面積百十四坪、長サ二百八十間、巾貳尺五寸、跳釣瓶ヨリ瀘台迄ノ土樋面積壹坪參合、長サ四間、巾貳尺瀘シ台ヨリ貯藏場ニ通スル土樋面積一坪三合、長サ八尺、巾六寸 計面積百拾六坪六合

七 採鹹用器具ノ名稱、種類、員數、構造、大小、形狀、効用及使用方法

名	稱	員數	構造	大小	形狀	効用及使用方法
引	鋏	一〇 <small>個</small>	木竹合製	何レモ一定ニシテ大小ナシ	圖面ノ如シ	撒砂ヲ縱横ニ搔キ均ラスニ用ユ 撒砂ヲ平坦ナラシムルニ用ユ
引	板	三	木製	同	同	撒砂ニ鹽分ノ附着セルヲ平ケ摧クニ用ユ 潮水溝ヨリ撒砂ニ潮水ヲ打懸クルニ用ユ
均	し	八	同	同	同	鹽分ノ附着セル鹹砂ヲ濱臺ニ入ル、ニ用ユ
掛	杓	一〇	同	同	同	藻垂又ハ潮通溝ヨリ潮水ヲ汲ミ上ケ濱臺中ノ鹹砂ニ注クニ用フ
枳	桶	二〇	同	同	同	同上濱擔桶ニ汲ミ入ル、ニ用ユ
濱	擔	一五	同	同	同	濱臺中ニアル鹹砂ノ垂槽ヲ掘取外部ヘ引上クルニ用ユ
藻	垂	一〇	同	同	同	濱臺外ノ撒砂ヲ撒布スルニ用ユ
壺	堀	二〇	同	同	同	濱臺外ノ子竹ヲ研クニ用ユ
木	鋏	二〇	鐵製	同	同	濱臺外ノ簧菰ニ附着ノ砂ヲ落スニ用ユ
引	鎌	一	鐵製	同	同	土樋ヨリ鹹水瀘過臺ヘ鹹水ヲ汲ミ上クルニ用ユ
臺	叩	一	木製	同	同	鹹砂藻垂又ハ潮通溝ノ潮水ヲ瀘過スルニ用ユ
跳	釣	二	同	同	同	濱臺ニテ瀘過シタル鹹水ノ垂下セルヲ受溜ルニ用ユ
木	製	二六八	同	同	同	
藻	垂	三八八	同	同	同	

粘土製臺	粘土製桶
一〇〇	二〇〇
同	同
同	同
同	同
土樋へ入レタル鹹水ノ流レ來レルヲ集合セシムルニ用ユ 溝砂、藻垂又ハ潮通溝ノ潮水ヲ瀘過スルニ用ユ	

八 種類ハ名稱ノ如クニシテ他ニ記スヘキコトナク使用方法ハ普通一人毎ニ人力ニヨリ使用スルモノニシテ他ニ方法ヲ用弗ス
採鹹用器具ノ新調費及保存期限

名	稱	員數	單價	金額	保存期	備考	
引	引板	一〇	〇・四二〇	四・二〇〇	二年	一ヶ年修繕費凡	二・一〇〇
均	均し	三	一・二〇〇	三・六〇〇	二	同	一・二〇〇
掛	掛杓	八	〇・一八〇	一・四四〇	一	同	一・八〇〇
濱	濱擔	一〇	〇・三五〇	三・五〇〇	三	同	一・七五〇
藻	藻垂	一五	一・二〇〇	二四・〇〇〇	一	同	〇・五〇〇
壺	壺杓	一〇	一・三〇〇	一三・五〇〇	三	同	三・九〇〇
木	木鋤	二〇	〇・三五〇	一七・〇〇〇	一	同	一・七五〇
引	引鎌	二〇	〇・九〇〇	一八・〇〇〇	一	同	〇・三五〇
臺	臺叩	一	〇・一五〇	一・五〇〇	一	同	〇・一五〇
跳	跳釣	一	〇・一〇〇	一・〇〇〇	一	同	〇・一〇〇
木	木製	二	二・〇〇〇	四・〇〇〇	二	同	二・〇〇〇
藻	藻垂	二	一・四〇〇	二・八〇〇	二	同	二・〇〇〇
土	土製	二	〇・七五〇	一・五〇〇	二	同	〇・七五〇
粘	粘土製	二	二・五〇〇	五・〇〇〇	二	同	五・五〇〇
計	計	一	〇・九〇〇	八七・八一九〇	四	同	二・四〇〇

左ノ費用ハ直接採鹹ニ關係ナキカ如キモ尙ホ年々費用ヲ要スルニ付掲記ス

名	稱	個	數	新調單價	金	額	保	存	期	修	繕	費	備	考
踏	突		三六	一・四〇〇	八・四〇〇		一	年		二・四〇〇				
金	先		一〇	〇・四五〇	四・五〇〇		一			二・七〇〇				
臺	形		二	三・〇〇〇	六・〇〇〇		二〇			〇・二五〇				
土	形		二	二・〇〇〇	四・〇〇〇		二〇			〇・二〇〇				
ご	突		八	〇・二五〇	二・〇〇〇		五			〇・二〇〇				
計					二四・二〇〇					五・四五〇				
合					九〇・二九〇					二六・八五〇				

九 鹹水貯藏裝置ノ構造、大小、形狀及面積

鹹水貯藏場貳棟ヲ設ケ鹹水ヲ貯藏セリ其構造外觀ハ通常ノ木造瓦葺ニシテ高サ四尺トス其内部ハ梁行三間半桁行九間半深サ九尺ノモノ一棟、梁行三間桁行七間半深八尺ノモノ壹棟ノ二個ニシテ何レモ其底及周圍ヲ芝土(德島産ニシテ茅ノ根ヲ生スル粘土)ヲ以テ搗キ固メ以テ鹹水ノ滲出ヲ防止セリ其面積ハ一ハ三十三坪二合五勺(容量約一、ハ八〇石)一ハ二十二坪五合(容量約一、三四〇石)トス(圖面參觀)

十 鹽田地盤ノ構造及性質

地盤ハ平面ニシテ高低アラサルモ海面ヨリ稍々低キニ失ス故ニ風浪荒キトキ又ハ大雨アリタルトキハ排水自由ナラス爲メニ採鹹ヲ爲ス能ハサルコト多シ地面以下約五寸ハ頗ル粘土性ニシテ撒砂散集上毫モ地層ヲ變スルコトナク次キ以下約五寸ハ砂利性ニシテ在來ノ濱土砂ハ尙其ノ以下ニアルモノナリトス

十一 撒砂(鹹砂)ノ種類、性質

微小ナル白砂ニシテ性質善ク鹽分ヲ吸收ス當地古有ノモノアラス悉ク阿波國撫養ヨリ移入シテ利用スルモノナリ即チ其ノ種類一ナルカ故他ノ種類ト鹹水ノ良否ヲ比較スル能ハス天然ノ鹹砂ハ採收セサルニ付關係ナシ

十二 撒砂(鹹砂)撒布量及替砂ノ數 ○撒砂撒布ノ量一反歩ニ對スル重量(一臺ニ付五荷(一荷ノ重量二十五貫目)此重量ハ凡ソ壹千貳百五拾貫其ノ容量凡ソ貳拾石トス而シテ此量ハ寒暖ノ季節ヲ平均シタルモノニシテ其寒暖ニ依リ多寡ノ差アルコト凡ソ左ノ如シ

六、七、八月ノ暑中時期ハ一反歩ニ對スル重量一千四百貫此容量二十二石四斗、十二、一、二月ノ寒冷時期ハ重量一千百貫、容量十七石六斗替砂ノ數量春秋二回ニ補充セリ其量一回ニ凡ソ(一臺ニ付三荷三荷ノ貫數)四百五十貳石四斗此重量凡ソ二萬八千二百七十五貫トス

十三 撒砂(鹹砂)乾燥ノ時期 毎朝午前八時頃潮水ヲ掛クルヲ例トシ午前十一時頃全ク乾燥ス即チ凡ソ三時間ヲ要ス尤モ四季ノ氣候ニ隨ヒ其時間ニ長短ノ差アルヘキハ勿論ナルモ當鹽田ノ如キハ其ノ撒水ノ量ヲ斟酌シ四時共ニ敢テ甚タシキ懸隔ハ生セサル如クセリ

十四 撒砂(鹹砂)浸出装置(沼井又ハ臺等)ニ注入スル海水量(鹹水採收用もんだれ採收用トニ依リ各別ノ容量及鹹水又ハもんだれ採收量) 鹹水ヲ採收スルニハ藻垂桶ニ受溜セル藻垂(二番鹹水)六斗ト潮水六斗トヲ臺ニ注入スルモノニシテ之レヨリ垂ル、鹹水ハ其量凡ソ六斗トナル即チ一石二斗ノ潮水ハ半減シテ六斗ノ鹹水ヲ得ルモノナリ尤モ寒暖又ハ天候ノ如何ニヨリ多少其ノ増減ヲ生スヘキモ標準ハ右六斗ヲ以テ可ナリトス

藻垂ヲ採收スルニハ右鹹水ヲ採收シタル後チ更ニ潮水六斗ヲ注入ス而シテ之レヨリ垂ル、潮水ハ凡ソ當初ノ六斗トナル即チ二番鹹水ニシテ之ヲ藻垂ト稱スルナリ

十五 海水、鹹水及もんだれ性質ノ比重、溫度ハ左ノ如クナルモ化學的性分ニ付テハ實驗セサルニ付不明ニ屬ス

比重、溫度、化學的成分

海水	比重	溫度	化學的成分
海水	一・〇二五	十四度強	不明ニ屬ス
鹹水	一・〇七五	十五度強	不明ニ屬ス

もんだれ

八度

十五度

不明ニ屬ス

十六 海水引入排出(水閘)海水汲揚装置及汲揚方法 海水引入、堤防ノ中央ニ凹形ノ海水引入溜ヲ設ケ鹽田ニ向ヒ二個ノ暗渠(四尺ノ距離ヲ存ス)ヲ穿テ滿潮ノ際其ノ渠口ニ押シ當テタル圓形桶形ノ詰ヲ引上クトキハ潮水溢レテ鹽田内溝渠ニ注クモノトス其ノ凹形ニ海水ヲ注入スルハ堤防中暗渠ノ海水ヲ入口ニ當ル海水中ニ石ノ鳥居ノ如キ水閘ヲ設ケ其水閘ノ中央ニ八寸角板ニ五尺ノ柄ヲ付ケタル戸ヲ上下スル方法ニ爲シ海水引入ノ外ハ常ニ渠口ニ之レヲ押シ當テ風浪荒キトキハ勿論滿潮其ノ他凹形ノ海水溜所ノ海水ノ動搖ヲ防止セルノ装置ナリ而シテ其ノ暗渠ハ周圍切石ヲ以テ築キ長サ約四間高貳尺横四尺ナリトス

排水、通常干潮ノ際凹形及水閘ノ戸ヲ除キ自然ニ排出スルノ装置ナルモ滿潮、風雨等自然ノ排出ヲ爲シ能ハサルトキハ水車ヲ以テ排出ス(圖面參觀)

十七 海水貯藏溜池ノ有無、大小、深淺及面積 該當記事ナシ

十八 鹽田一戸前又ハ一定反別ニ就キテ一ヶ年平均鹹水採收量及月別鹹水採收歩合 一ヶ年平均鹹水採收量ハ凡ソ六千八百拾餘石トス(最近五ヶ年分ヲ平均ス)

右月別採收石數及其ノ歩合左ノ如シ

月	別	臺數	持濱日數	鹹水總石數	歩合	比重	平均比重
一	月	七〇〇	一四〇	四二〇	〇六三	十六度弱	
二	月	一、〇五〇	一五〇	六三〇	〇九四	十六度強	
三	月	一、〇五〇	一五〇	六三〇	〇九四	十六度強	
四	月	一、六五〇	七	九九〇	一四八	十七度弱	
五	月	一、二〇〇	同	七二〇	一〇八	十七度強	
六	月	一、二〇〇	同	七二〇	一〇八	十七度強	十七度弱

七	月	一、五〇〇(同)	(十)	日	七斗	一、〇五〇	一、五六	十八度強
八	月	二、五五〇(同)	(十七)	日	七斗二升	一、八三〇	二七五	二十度弱
九	月	六〇〇(同)	一〇〇	日	七斗	四二〇	六三	十九度弱
十	月	三六〇(同)	(三)	日	五斗	一八〇	二七	十六度弱
十一	月	四八〇(同)	(四)	日	同	二四〇	三六	十四度強
十二	月	五〇〇(同)	一〇〇	日	四斗	二〇〇	三〇	十四度強
計		一〇、五九〇(同)	(七十五)	日		六六八〇	一〇〇〇	

十九 鹽田一戸前又ハ一定反別採鹹ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀

人夫ノ種類	員數	賃銀	一ヶ年各人夫ノ一人當賃銀	總賃銀
濱床鋤返シ人夫		四拾錢		二四〇〇〇
濱持人夫	十一人	五拾錢		五五〇〇〇
濱引人夫	三拾人	三拾錢		二一〇〇〇
計				七七八四〇〇

右ノ如ク十一人ニテ共同勞役シ分業ニヨラサルヲ以テ其ノ日ノ賃銀ニ於テハ多少増減ヲ生シ一定ニアラサルモ各種類每一人當ノ賃金ハ表示シ難シ

二十 鹹水採取時季及採鹹量ト風位トノ關係 西北ノ風ハ砂ノ乾燥ニ適セルヲ以テ撒砂ノ砂鹽分吸收力ヲ増加ス之ニ反シ東南ノ風ハ常ニ濕氣ヲ帶ヒ大ニ撒砂ノ乾燥ヲ害シ隨テ吸收力ヲ減少ス但シ四季ニ區別スレハ左ノ如シ
 春(三、四月)ハ通常東風ナルヲ以テ一臺ノ鹹水四斗ニ下ルコトアルモ天氣晴朗ナルトキハ凡ソ五斗乃至六斗ヲ以テ普通トス
 夏(五、六、七月)ハ通常西南風ナルヲ以テ一臺ノ鹹水六斗乃至七斗トス

秋(八、九月)ハ通常西北風ナルヲ以テ一臺ノ鹹水八斗ニ上ルコト少ナカラス

冬(十、十一、十二月)ハ通常西風ナルモ天候降霜降雪等ニヨリ四斗ニ下ルコトアリ但シ六斗ヲ以テ普通トス

右ノ如クナルヲ以テ八、九月ヲ最好時トス

二十一、一年間ノ採鹹平均日數 平均日數百日トス内持濱日數百日、準備濱日數百四十日

二十二、一年間ノ平均鹹水採收量 凡ソ六千六百八十石(一區域ノモノナルヲ以テ上中下ノ等差ナシ)

二十三、準備濱持濱其他ノ他採鹹ニ關スル操作ノ順序及方法

事業ノ開始 (一)例年一月、二月、三月通常ハ濱休ト稱ヘ採鹹セス四月ニ入り漸ク採鹹準備ニ着手ス而シテ其ノ着手ニ

先タチ床土ノ鋤返シヲ爲ス即チ荒鋤ヲ以テ土ヲこなシ次ニ金先ニテ床ノ荒直シヲ爲シ次ニ竹鋏ヲ以テ引返シえぶりニテ床

塗ヲ爲ス是レニテ大體ノ濱床ヲ構成ス而シテ二三日ヲ經過シ地盤ノ乾燥シタルトキハ一臺宛凡三荷(一石二斗)ノ荒砂ヲ平

撒シ初メテ撒砂ヲ撒布スルニ至ルモノナリ (二)鹽田内溝渠ノ手入ヲ爲ス即チ埋塞セル土砂ヲ堤防ヘ運搬シ清潔ニ浚渫

ヲ爲ス

準備及持濱 右ノ手入ヲ終リ撒砂ヲ爲シ前記(五項參觀)ノ順序方法ニヨリテ採鹹ヲ爲ス而シテ夏季ニ於ケル七、八、九

ノ各月ハ大抵替特ニシテ其ノ他ノ各月ハ夏季ノ如ク乾燥セサルヲ以テ三日持トナセリ

雨後ニ對スル準備トシテハ雨水ノ停滯ヲ排除シ地面ヲ竹鋏ニテ搔キ廻シ乾燥セシメタル上撒砂ヲ撒布ス

二十四 鹹水採收ニ關スル其ノ他ノ事項 該記當事ナシ

乙 鹹水煎熬

一 釜屋ノ構造、大小、廣狹及面積 木造瓦葺ニシテ凡ソ五尺ノ高サニ周圍石及煉瓦ヲ以テ築キ立テ其上ヲ壁土トス面積

三十六坪(梁行五間半 桁行六間半)ニシテ釜ノ上部ニ當ル屋上ニハ湯氣抜きノ空所ヲ開キアリ(圖面參觀)

二 釜及竈ノ種類、構造、大小、製造原料及釜ノ深淺

名	稱	種	類	構	造	大	小	製造原料	釜ノ深淺
結晶釜	釜	石	釜	縦一丈二尺横九尺深サ三寸 直徑三尺周圍九尺半ノ圓形	一個ニ付大小ナシ	同	同	木灰、灰土、讚岐産 鑄物(つく)	三 二尺一寸
溫め釜	釜	土	釜	長サ十五尺高サ二尺五寸巾 二尺卵形	同	同	同	土	一 寸

三 石釜及竈築造方法及築造後使用ニ至ル迄ノ操作

竈ノ築造 釜屋内中央ノ地盤ヲ形(深サ三尺)ニ堀リ其ノ底面ヨリ高サ二尺五寸長サ五尺幅二尺ノ卵形ノ土竈ヲ作り

其竈兩側ニ長サ一尺七寸幅^{上三寸}_{下五寸}ノ菱形ノ空隙各五ヶ所ヲ設ケ其ノ空間ニヨリ空氣ヲ入レ又ハ石炭殻ヲ墜下セシムルノ用

ニ供セリ(圖面參觀)

石釜ノ築造 長サ二間(七寸角)ノ根太二本五尺五寸ノ距離ヲ存シ横ニ并列シ其ノ上ニ厚サ二寸幅五寸長サ一丈ノ板ヲ二

十三枚詰メ並へ次ニ筋金^(鐵棒一寸五分角)四本^(長サ一丈二尺五寸ノモノ二本ヲ横ニ長サ九尺五寸ノモノ二本ヲ縦ニ)ヲ四角ニ組ミ其ノ組ミ合セノ四方ノ角ニ大小二本ノ隅金

ヲ嵌メ込ミ以テ繼合ノ離別ヲ防止ス而シテ其ノ内容ハ五寸乃至六寸角ノ石ヲ數キ詰メ其ノ間隙ニ讚岐産ノ赤土ト薪炭ト食

鹽トシテ搗キ上ケ額ル粘着力ヲ有セシメタル土ヲ詰メ込ミ表面ヲ平均シツ、形ノ鈞四十五本^(縦九本横五本)ヲ其ノ釜石ニ固着

セシメタル石ニ掛ケテ直立セシム而シテ其ノ周圍ニ灰ト食鹽トヲ以テ搗キ上ケタル土ヲ高サ三寸ニ積ミ以テ椽ヲ爲シ鹹水

ノ流出ヲ防ク之レニテ大體ノ石釜ヲ構成シタルモノニシテ此日ヲ終ル其翌日薪八十貫ヲ積ミ列へ濡菰ヲ以テ之ヲ掩蓋シ火

ヲ點シ數石ヲ蒸焼セシメ乾キ固マリタルトキハ四方ニ靴石ヲ設ケ其上ニ高サ二尺五寸(三寸角)ノ柱ヲ立テ其柱ノ上ニ笠木

ヲ横ニ差シ渡シ尙其ノ笠木ノ上ニ長サ一丈ノ桁九本ヲ縱ニ爲シ前ノ形鈞ニ針金ヲ結束シ右九本ノ桁ニ縛リ付ケ終レハ

最初ノ根太ヲ抜キ去リ其空間四方ニ石ヲ詰メ尙鹽砂ニテ塗リ固メ以テ火ノ外出ヲ防ク

右ニテ全ク石釜ノ築造ヲ終リタルヲ以テ翌日ヨリ煎熬ニ着手スルモノナリトス(圖面參觀)

四 鹹水ヲ釜屋ニ輸送スル裝置、構造及方法 鹹水貯藏場ヨリ釜屋内だぶり桶ニ通シ土中竹管ヲ埋設セルノ裝置ニシテ其

ノ竹管ハ長サ六十尺直經三寸トスだぶり桶ハ木造圓形ニシテ土中ニ埋メアリ其ノ深サ八尺直經四尺ナリ而シテ輸送ノ方法ハ貯藏場管口ニ押シ當タル詰ヲ除クトキハ鹹水ハ竹管ヲ通りテだぶり桶ニ注入スルモノトス(圖面參觀)

五 煎熬用器具ノ名稱、種類、員數、形狀、大小、構造及方法

名稱	種類	員數	形狀	大小	構造及方法
溫釜	名稱ノ如シ	四	圓面ノ如シ	何レモ一定ニシテ大小ナシ	づく鐵製澄シ箱ヨリ流入セル鹹水ヲ溫暖ナラシメ結晶釜ヘ注入スルニ用ユ
湯取杓	同	四	同	同	木製ノ溫釜ヨリ結晶釜ヘ鹹水ヲ注入スルニ使用ス
手斧	同	五	同	同	結晶釜中ニ附着ノ食鹽其ノ他ノ爽雜物ヲ叩キ落スニ使用ス(鐵製)
鹹水瀝桶	同	一	同	同	だぶり桶ヨリ加鈞瓶ニシテ汲ミ上ケタル鹹水ヲ瀝過スルニ使用ス(木製)
同澄し箱	同	一	同	同	瀝桶ヨリ瀝過シタル鹹水ヲ貯藏シ澄シタル上溫釜ヘ入ル、ニ用ユ(木製)
跳釣瓶	同	一	同	同	だぶり桶ヨリ鹹水瀝桶ヘ鹹水ヲ汲上ルニ用ユ(木製)
石炭殼出擔桶	同	一	同	同	石炭殼ノ搬出又ハ消火ヲ爲スニ用ユ(木製)
てこ	同	二	同	同	結晶釜ノ左右ノ窓ヨリ石炭ノ火加減ヲナスニ用ユ(鐵製)
割てこ	同	一	同	同	同前面ヨリ燃料ノ加減ヲ爲ス火箸ナリ(鐵製)
かいら	同	一	同	同	石炭殼ヲ火床外ニ搔キ出スニ使用ス(鐵製)
十能引	同	六	同	同	石炭ヲ火床ニ投スルニ用ユ(木製)
斗能	同	一	同	同	鹽ノ量目ヲ一定ナラシメ俵裝ヲナスニ用ユ(木製)
筋金桶	同	四	同	同	結晶竈ノ周圍ノ基礎ヲ作ルニ用ユ(鐵製)
釣鐵板	同	四	同	同	同上石竈全部ヲ釣リ上クルニ用ユ(鐵製)
竈柱	同	三	同	同	石釜築立ノ際竈石ヲ並ヘ塗上ケ燒固ル迄ニ用ユ(木製)
釣木桁	同	九	同	同	結晶釜ヲ釣上クルタメ之ヲ支持スルニ用ユ(木製)
笠	同	二	同	同	同上(木製)
荒布	同	一	同	同	同上(木製)
結晶釜	同	一	同	同	結晶釜ヘ注加スル荒布煮汁ヲ入ルルニ用ユ(木製)

名	稱	個	數	單	價	金	額	保	存	期	限	修	繕	費	一	ケ	年	分
電	板		二		〇・三五〇	四	八・〇五〇			一	五			一	五	〇		
電	柱		四		〇・一五〇		〇・六〇〇			三	三							
釣	桁		九		〇・四〇〇		三・六〇〇			三	三							
笠	木		二		一・〇〇〇		二・〇〇〇			五	五							
荒	桶		一		〇・六〇〇		〇・六〇〇			五	五							
ご	桶		一		〇・六〇〇		〇・六〇〇			五	五							
か	桶		一		〇・七〇〇		〇・七〇〇			二	〇							
根	落		二		二・五〇〇		五・〇〇〇			一	一							
ご	シ		一		〇・二〇〇		〇・二〇〇			二	〇							
鎌	汁		一		二・〇〇〇		二・〇〇〇			一	〇							
計	瀘		一		一・九七五		一・九七五			一	〇							
計	桶		一		一・九七五		一・九七五			一	〇							

七 燃料ノ種類、名稱、產地、價格及品質

種	類	名	稱	産	地	價	格	品	質																	
石	炭	元	山	長	州	元	山	一	萬	斤	四	十	圓	發	熱	量	ハ	試	驗	セ	サ	ル	ニ	付	不	明
同		三	池	粉	炭	筑	後	大	浦	産	同	五	十	圓	同											

八 一釜ニ使用スル鹹水容量及製造鹽等級別數量、一釜煎熬ニ使用スル燃料ノ數量 一釜ニ使用スル鹹水ノ容量約三石七

升六合此比重十七度溫度十五度強

右製造鹽五等約一石九升六合此ノ重量凡ソ二十五貫九百九十目トス一釜煎熬ニ使用スル燃料ノ數量石炭約二百二十四斤

右煎熬シ得タル鹽ハ五等鹽ナルヲ以テ等級別區分ヲナス能ハス

九 煎熬ニ使用スル各種石炭混合ノ割合 一釜ニ付元山炭百八十斤、三池粉炭三十八斤、計二百二十四斤トス即チ其ノ步

合ヲ求ムレハ元山炭八割三分ニシテ三池粉炭一割七分ニ相當ス

十 鹹水ヲ釜ニ注加スルニ先チ汚物ヲ除去スルカ爲メ之ヲ瀘過スル裝置ノ有無、構造及方法 鹹水ヲ温メ釜ニ注加スルニ

先チ汚物ヲ除去スル方法トシテ瀘過桶ヲ裝置セリ即チ直徑五尺深サ一尺六寸ノ木造桶ニシテ其ノ内容ハ底ニ篋菰ヲ敷キ上

ニ根太ヲ置キ次ニ布ヲ敷キ其ノ上ニ五寸餘ノ細砂ヲ置キ尙上ニ菰菰ヲ敷キ以テだぶり桶ノ鹹水ヲ汲ミ入ルレハ之ヨリ流レ

タル鹹水ハ竹管ニヨリ澄シ桶ニ入り更ニ竹管ヲ通シテ温メ釜ニ注入スルノ順序ナリ(圖面參觀)

十一 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル鹹水煎熬ニ要スル人夫ノ種類、名稱、員數及賃銀 煎熬ニ要スル人夫ハ三人ニ

シテ内一人ヲ統領トス他ノ二人ハ別段名稱ナシ統領ノ日給ハ四十四錢ニシテ一ケ年總日數凡百八十日トシ此總賃銀七拾九

圓貳拾錢トス他ノ二人ハ何レモ日給三十八錢ニシテ此總賃銀一人當リ六拾八圓四拾錢二人分百三十六圓八拾錢合計貳百拾

六圓ナリトス

十二 一晝夜ニ於テ煎熬ヲ終ル釜數及鹹水量并ニ其ノ收鹽量 一晝夜ニ於テ釜數十三釜ヲ終ル之ニ要スル鹹水量四十石、

此ノ重量二千貫ニシテ收鹽量十三石三升、此重量三百五拾貳貫、此斤數二千二百斤餘ナリ

十三 鹽田一戸前又ハ一定反別ヨリ得タル製鹽總量 一定反別ヨリ得タル製鹽石數二千三百四十五石此重量六萬三千三百

拾五貫此ノ斤數三十九萬五千七百十八斤ニシテ製鹽五等鹽ノミナリ

十四 居出シ場ノ構造、大小、廣狹 地面ヨリ約二尺ヲ下ケ縦一丈五尺橫五尺五寸ニ高サ二尺ノ板ヲ張リ長方形ト爲シ之

ヲ三分セリ而シテ其ノ内容ハ粘土ヲ以テ打チ固メ上ニ根太ヲ五寸明ニ并列シ次ニ竹ヲ比ヘ尙次ニ小麥稈ノ簀ヲ敷キタル上

ニ砂ヲ撒キ又其ノ上ニ最モ細キ竹簀ヲ敷キタルモノニシテ之レニ鹽ヲ投入シ二日間置キテ包裝ヲ爲ス(圖面參觀)

十五 熬鹹ニ關スル操作及其ノ方法 鹹水貯藏場ヨリ地中ノ水道ヲ經テ竈屋ニ据付ケタルだぶり桶ニ入レル鹹水ヲ跳釣瓶

ニテ汲ミ上ケ瀘シ桶ニ入レ更ニ竹管ヲ通シテ貯水箱ニ入り夫レヨリ亦竹桶ヲ經テ温メ釜ニ注キ微温ヲ帶ヒタルトキ之ヲ結

- 晶釜ニ移入シ石炭ニテ焚キ適宜結晶セシモノヲ釜居杖エリニテヨセ刻かいニテ鹽取箱ニ入レ置キ之ヲ其室内ニ設置セル居出シ場ニ二日間存置シ俵装ヲ爲スノ順序ナリ
- 而シテ製鹽ノ種類差鹽ナルヲ以テ初メ一釜ノ焚上鹹水凡ソ三石二斗ノ内ヨリ凡ソ三斗ヲ垂ル苦汁ハ次回ニ直接釜ニ投入シ豫メ鹹水ト混和シ置クモノニアラス故ニ次回ニハ鹹水二石六斗ヲ入レ茲ニ一釜ノ量三石二斗トナルモノニシテ之レヨリ得ル苦汁凡ソ三斗ハ右ノ方法ヲ繰返スルモノナリ
- 十六 從來使用シタル釜及竈ノ變遷并ニ使用燃料ノ變遷 結晶釜ハ從來別段異變ナシ温メ釜ハ從來一個ナリシヲ燃料ノ種類松葉ヨリ石炭ニ變スルニ從ヒ一一個ヲ増加シ二個ヲ併列使用セリ竈ノ煙出シハ從來何等設備ナカリシヲ明治十四年微弱ナル煙突ヲ新築シ明明三十一年現今ノ堅牢ナル煙突ニ改築セリ(圖面參觀)
- 燃料ハ從來松葉ヲ使用シタルヲ明治十四年石炭ニ變更セリ其ノ他ハ別段變リシコトナシ
- 十七 煎熬ニ關スル其ノ他ノ事項 該當記事ナシ
- 十八 一年ノ平均煎熬日數 百八十日
- 十九 一年間ノ平均收鹽量 收鹽量三十九萬五千七百十八斤容量二千三百四十五石
- 二十 一年間ノ採鹹及煎熬費用

費目	金額	費目	金額
石炭 四九二、八四〇	一、〇三三、〇〇〇	固定資本ニ對スル利子	八一二、〇〇〇
採鹹ニ屬スル器具器械等ノ費用	六一四、〇〇〇	運轉資本ニ對スル利子	八〇、〇〇〇
採鹹ニ屬スル勞銀	九九九、〇〇〇	雜費	七一、〇〇〇
煎熬ニ屬スル器具、器械等ノ費用	一四七、〇〇〇	公課	一三一、〇〇〇
煎熬ニ屬スル勞銀	二一六、〇〇〇	計	四、二二三、〇〇〇
包裝費	一三〇、〇〇〇		

二十一 從來平年ニ於ケル鹽田一戸前又ハ一定反別ノ收支計算表

收 入

一金三千四百四十七圓五拾錢

一ヶ年生産鹽量三九四、〇〇〇斤
一俵四十斤當平均三十五錢

支 出

一金四千貳百貳拾參圓

前項ニ掲ケタル總費用

差 引

一金七百七拾五圓五拾錢

不 足

以上ノ如キ損失ヲ見ル蓋シ當業者ハ固定資本運轉資本ノ利子等ノ如キヲ常ニ計算ノ外ニ附シ且ツ採鹹煎熬ニ要スル器具器械ノ類從前ヨリ使用シ來レルモノヲ補充シ可成新調費用ヲ少ナカラサラシムルニヨリ漸ク計算ヲ立テ少計ノ利益ヲ收入セリ然レトモ鹽價ハ從來其ノ昂低常ナラサルニ依リ或ハ意外ノ利益ヲ得ルコトナキニアラス一八年ノ豐凶價格ノ變動ニヨリ其ノ趣ヲ異ニスルモノナルモ以上ハ平年分トシテ掲記セリ

二十二 其他採鹹煎熬ノ方法、鹽田、釜、竈ニ關シテ進步シタル點、改良ヲ要スヘキ點及改良案

進步シタル點

(一) 從前藻垂桶ノ鹹水ヲ其儘貯藏場ニ注キタリシヲ別ニ濾シ臺(圖面參觀)ヲ設ケ汚物ヲ洗滌シテ貯藏場ニ入ルノ裝置ニ改良セリ

(二) 從前鹹水貯藏場ヨリ引水シタル鹹水ヲ直接釜ニ注入シ來リテ別ニ濾シ臺ヲ設ケ汚物ヲ除却シ釜ニ流入スルノ裝置ニ改良セリ

(三) 從來煙リ出シノ設備ナカリシヲ新ニ煙筒ヲ作り面目ヲ一新セリ

(四) 從來燃料松葉ヲ用ヒタリシヲ石炭ニ改良セリ

改良スヘキ點

- (一) 鹽田ノ地盤海面ヨリ稍底キニ失スルヲ以テ排水方甚不便ナリ故ニ其地層ヲ高カラシメハ排水甚タ容易ナルヘシ
- (二) 從來ノ石釜ヲ廢シテ鐵製ノ結晶釜トナサハ毎ニ石釜鑿造ノ手數及費用ヲ省キ且ツ迅速煎熬ニ着手ヲ爲スヲ得ヘシ

第四章 製鹽及副産物ノ種類、用途

- 一 眞鹽又ハ差鹽ノ區別及各別ノ數量 當鹽田ハ差鹽ノミニシテ一ヶ年收鹽量約三十六萬貳千餘斤トス而シテ鹹水ト苦汁ト混和スル割合ハ一釜ニ付苦汁凡ソ三斗ニ鹹水三斗ヲ混和セルノ標準ニシテ即チ凡ソ其量ヲ同シクセリ
- 二 鹽ノ理化學的性質 從來理化學的試驗ヲ爲サ、ルニ性質ノ如キハ不明ニ屬スルモ今外觀上ニヨレハ沸騰中ハ茶褐色ヲ呈シ漸次薄茶色ニ變シ其鹽トナリテ居出場ニ入ルルノ際ハ稍白色ヲ呈セリ其一日ヲ經過シ翌朝ニ至リ至ク白色トナル然レトモ從來五等鹽ノ品質ナルヲ以テ純白ニアラス結晶ノ状態ニ付テハ更ニ不明ニ屬ス其成分ニ付テハ曾テ本局ニ於テ鑑定シタル成蹟左ノ如シ

供試量數量 六十瓦

驗體符號	等級	鹽化曹達	水分	夾雜物	備考
一 號	五等	七二、二一六五	一三、三一〇	一一、八五二	以上ノ成蹟ハ食鹽百分中ノ% 量ヲ示ス
二 號	五等	七〇、七〇一六	一三、六二〇	一一、八四二	

三 鹽主要ノ用途 漁業用ヲ第一トシ醬油釀造用、味噌漬物用等之レニ次キ其ノ他ハ一般需用ニ供スルモノトス今平年分

ニ付調査セシ所ニヨレハ其需ノ用途凡ソ左ノ如シ

- 漁業用 一、五四二石
- 醬油用 八二一石
- 味噌用 九〇石
- 漬物用 六〇石

三 其他 大小 二七九石 計 二、七九二石

四 鹽(各等級)ノ容量ニ對スル重量 五等鹽ノミニシテ鹽壹石ノ容量ニ對スル重量凡ソ二十七貫トス

五 苦汁ノ用途

六 苦汁利用ノ方法

七 苦汁ノ生産量

八 苦汁ノ貯藏装置及貯藏方法

九 苦汁一石ノ賣買價格

十 苦汁ノ運搬方法及其販路地

十一 苦汁ヨリ生スル副産物製造装置及製造方法

十二 副産物ノ種類名稱及用途

十三 副産物ノ價格及販路地

右九項該當記事ナシ

十四 鼠鹽、かいさき鹽、泥鹽、居出鹽、釜立鹽等ノ粗惡鹽產出額其使用方法販路及價格 釜立鹽一ヶ年產出額凡八百斤

六ニシテ悉ク之レヲ鹹水貯藏場ニ混入セリ其他鼠鹽等アレトモ少量ニシテ竈ノ築造等ニ使用シ殘餘ハ廢棄セリ

第五章 鹽ノ包裝及秤量

一 從來ニ於ケル一包裝鹽ノ數量 呼稱容量ハ二斗五升ナレトモ其實容量ハ凡ソ二斗トス重量ハ四十斤内外トス包裝ハ一

定シテ大小ナシ

二 包裝ノ形狀、種類 (圖面參觀)

三 包装ノ編製方法其原料 包装ノ編製方法ハ精選セル藁二本宛ヲ頗ル細キ繩(俗ニすべ繩ト稱ス)ヲ以テ四通リニ編ミタルモノニシテ之レニ鹽ヲ入レ細繩ヲ以テ二卷宛三通リ結束シ完成スルモノナリ其原料ハ藁ノミナリ

四 各種包装ノ價格 俵(繩トモ)一個ニ付金貳錢

五 包装ハ一重又ハ二重ナルカ又ハ其ノ形狀、大小等販賣先ニ依リ差異ノ有無 一重ノミニシテ其形狀、大小等以上述べタル如ク且ツ販賣先ニ依リ差異アルコトナシ

六 包装ニ附記スル商標其他記號ノ種類、形狀、大小 包装ニ附記スル商標ハ總テ一定ニシテ燒印ヲ以テ包装面ニ押捺セリ(圖面參觀)

七 秤量器ノ種類、形狀、大小及材料 鹽ノ秤量器ハ斗桶ト稱シ凡ソ一斗三升ヲ容ル、モノ一個ト通常ノ一升樽トヲ使用セリ而シテ其斗桶ノ材料ハ杉板ナリ(圖面參觀)

第六章 貯藏方法

一 倉庫ノ構造、大小及壁床ノ構造 木造瓦葺一棟面積十六坪ニシテ外面ハ全部板張ナリ内部ハ平面長方形ニシテ周圍ノ

壁ニ一間ノ高サニテ板張ヲ爲セリ而シテ其目的ハ保存ヲ主ト爲スカ故下層ニ石炭殻ヲ敷キ其上ニ土砂ヲ置キ地盤ヲ固メ包装ヲ積堆セリ故ニ包装ヨリ垂ルル少量ノ苦汁ハ土砂ニ浸入シ地面ニ停滯セサルナリ

二 貯藏方法及貯藏鹽期間ニ於ケル俵ノ損傷ノ程度及狀態 包装シテ貯藏セリ而シテ其貯藏鹽ノ期間永カラサルヲ以テ俵ノ損傷シテ取替ヲ要スルカ如キハ甚タ稀ナリ尤モ下層ニアルモノハ上部ノ重量ニヨリ多少壓迫セラレ稍損傷ヲ受クルモ之

レカ爲メ甚タシク包装ノ變形若クハ破綻シテ運搬シ能ハサルカ如キ事ナク只少シク體裁ヲ損スルノミナリ其他異狀アルコトナシ

三 俵裝ノ大小ニ依ル積載ノ高サ若クハ俵數及積載方法 包装ノ形狀一定ナルヲ以テ一坪ニシテ二十五俵(縱五俵、橫同)ヲ五段ノ

高サニ積堆ス即チ一坪毎ニ百二十五俵ノ數ヲ容ル、モノニシテ全坪數十六坪ニ二千俵ヲ容ル、ノ計算ナリ

四 一年間ニ於ケル眞鹽差鹽ノ各貯藏歩減及各滴出苦汁量 當地差鹽ノ貯藏一ケ年ノ永キニ涉ルコトナク最モ永キモ二

ケ月餘ニ過キササルヲ以テ貯藏歩減甚タシキコトナシ且ツ賣買ニ在ツテハ之レカ容量、重量ヲ見ルコトナク現俵裝ニ付取引ヲ爲セルノ狀態ナリ而シテ滴出苦汁量ニ至ツテハ之レヲ採取スルコトナシ且ツ殆ント採取スル程ノ量ナシ

五 苦汁ノ採收方法及貯藏裝置 採收方法ハ石釜ノ傍ヲニ苦汁垂下ノ構造ヲ設置セリ其内容ハ地下一尺餘ヲ堀リ底及周圍

ヲ粘土ヲ以テ打チ固メ上ニ根太ヲ并列シ尙其上ニ小片ノ板ヲ斜ニ敷キ列ヘ以テ適宜結晶セル鹽ヲ之レニ投入ス即チ其鹽ニ合マル、苦汁ハ自然ニ垂下シ土中竹管ニヨリ土中埋入桶ニ注入ス之レヲ杓ニテ傍ラノ濾過桶(布ヲ以テ濾過ス)ニ注キ更ニ竹管ヲ流

シ溜桶ニ集中スルモノヲ凡ソ其量ヲ斗リ石釜ニ投入セリ以上ハ差鹽ニ係ル苦汁採收法ニシテ(圖面參觀)其他居出シ場ニ積堆セル鹽ヨリ少許垂ル、苦汁ヲ採取スルカ爲メ桶ヲ土中ニ嵌入シ其流出ヲ受溜セルノ構造一アルノミ(圖面參觀)而シテ採

取方右ノ如ク且ツ其量僅少ナルヲ以テ從來廢棄セリ故ニ別ニ貯藏裝置ナシ

六 古積鹽ノ製造方法及製造期間ニ於ケル鹽歩減ノ割合 該當記事ナシ

七 古積鹽製造用家屋ノ大小、構造及床四壁ノ構造 該當記事ナシ

第七章 鹽ノ販賣

一 從來ニ於ケル鹽販賣ノ方法 製鹽者ハ其多クヲ仲買人ニ卸賣ニナシ直接消費者へ小賣ヲ爲スハ甚タ僅少ナリ而シテ其

賣買ハ大抵現金取引ナルモ小部分ハ掛賣ヲ爲シ地方ノ慣例ニヨリ八月、二月(俗ニ節季ト云フ)ノ二季ニ仕拂ヒヲ爲スコト

三、セリ尙ホ鹽ノ取引場所ニ就テハ船中ニ在ツテハ賣渡者ニ於テ現品ヲ船中ニ積入レ現金ヲ受取ルモノニシテ陸ニ在ツテハ仲買人ニ於テ賣渡者ニ就テ現品ヲ受取ル然レトモ之レ其ノ一班ヲ述ヘタルモノニシテ或ハ場合ニ依リ反對ノ事モアリ

二 鹽ヲ賣買スル船頭ノ習慣及船頭カ鹽ヲ賣買、運搬スル方法、船員ノ給料、船頭ト鹽商トノ關係 從來船頭ニ於テ鹽ノ

賣買ヲ爲セルコトナキニ非サレトモ其例少ナク且ツ何等ノ習慣、關係等ナク普通商人トノ間ニ於ケル取引ト異ナルコトナシ尙ホ鹽運送ノミニ船員ヲ雇ヒ入ル、カ如キ事實ナシ又船頭カ鹽ヲ賣買、運搬スル方法トシテ特ニ記スヘキ事ナシ

三 從來ニ於ケル鹽ノ販路 從來ノ販路ハ凡ソ其五分ハ地方捌ニシテ殘餘ヲ輸出セリ輸出ノ方面ハ紀州熊野地方及東京ナリ然レトモ之レ等ハ阿波國撫養鹽ノ船積ヲ爲スニ當リ其不足額或ハ其序ヲ以テ買込ニ來ルモノナルヲ以テ常ニ一定ノ販路

トハ云ヒ難キモ往々其例ヲ同シクセリ且ツ從來用途ヲ定メテ注文セルカ如キコトナシ

四 鹽商カ鹽業者ニ資金ヲ融通スルノ有無及其方法、契約并ニ償却ノ方法 該當記事ナシ

五 從來ニ於ケル鹽ノ濱相場、小賣價格 三十七年以前三ヶ年間ノ分左ノ如シ

三十五年 一石當 壹升當 貳錢貳厘

三十六年 同 同 貳錢五厘

三十七年 同 同 貳錢八厘

六 鹽價ノ定メ方 當地方ノ消費鹽ハ十中ノ八九ハ阿波國撫養鹽ヲ輸入スルモノナルヲ以テ當地鹽價ハ率ネ之レカ價格ニ

準據セリ尤モ收支計算上凡テ一俵ニ付キ三錢乃至四錢ノ利益ヲ得ルノ程度ニシテ即チ三分乃至四分ノ純利ヲ得ルヲ標準ト

セリ

七 販賣ノ季節 當產鹽ハ其過半ヲ漁業用ト醬油釀造用トニ使用スルモノナルヲ以テ其漁獵ノ最モ多キ且ツ醬油釀造用ノ

爲メ買込ヲ爲ス時機ニ當レル七、八、九、十ノ各月ハ販賣ノ額大ニシテ產鹽ノ約六分ヲ販賣セリ而シテ其最モ少ナキハ一

二、三、四ノ各月ナリトス蓋シ此季ニ在ツテハ漬物用、味噌用等ニ消費スル時機ナルモ當產鹽ハ此等ノ用途ニ使用スルハ

少量ナルカ故ナリトス

八 鹽ノ俵數抜キ検査ノ方法 從來俵數抜キ検査ノ方法ハ單純ニシテ只其表面ノ品質ヲ以テ全部ヲ類推セリ故ニ俵數ニ至

ツテモ百分中十内外ヲ點檢シテ以テ全部ノ敢テ異ナラサルモノト看做セルノ慣例ナリ

九 鹽ノ受渡ニ際シ重量、容量ノ減少ニ對スル處置 從來鹽ノ受渡ハ一俵ニ付何程トナシ其内容ノ重量、容量如何ヲ問ハ

サルナリ故ニ其ノ重量、容量ノ減少ハ其步減ヲ察シテ容量増シ重量増シ等ヲナスカ如キ事實無ク只其ノ甚タシキ減少ノモ
ノニ在リテハ其價格ニ於テ幾分減少セリ然レトモ當地ノ如キハ賣買、取引速カナルヲ以テ斯カル事實ヲ生スルハ甚タ稀ナ
リ而シテ當地一俵ノ呼稱容量ハ二斗五升ナルモ其實量ハ二斗内外トス又小賣一升ノ實量ハ二百七十目内外ナリ

十 鹹水賣買ノ有無及其方法價格ノ定メ方 該當記事ナシ

十一 製鹽ノ原料タル鹹水ニ對スル見越買ノ有無及其方法 該當記事ナシ

第八章 鹽搬運ノ方法及運搬費

一 從來ニ於ケル鹽ノ運搬方法及其ノ各種積載數量 輸出ハ東京及熊野、紀州地方ナルヲ以テ東京ハ帆船ニヨリ熊野ハ和
船ニヨリ運搬セリ而シテ積載數量ハ通常阿波國撫養鹽購入ノ際當地ニ同航シ買占メヲナセルヲ以テ其量不明ナリ又當地地
廻ハ車ニヨリ運搬シ牛車ハ通常二十五俵人カニヨル車ハ十二俵ヲ積載セリ

二 各運搬方法ニ依レル各運搬先迄ノ鹽一定量又ハ一定容量ノ運賃及出荷地ニ於ケル手數料、諸掛費、保險料、着荷地ニ於
ケル諸掛費用等 東京行ハ紀州、由良ノ内三濱、志州濱島、遠州灘、伊豆下田ヲ通路トナシ凡ソ日數十日ヲ費シ一俵ノ
運賃七錢五厘此レカ保險量一錢六厘計九錢壹厘ノ運賃ヲ支出セリ

紀州熊野行ハ紀州由良ノ内三濱、尾鷲ヲ通路トシ日數二日ヲ費シ一俵ニ付運賃四錢ヲ支拂ヘリ
地廻ハ陸路州本街道ヨリ運搬シ一俵三錢宛ノ運賃ヲ要セリ

以上鹽ノ運賃ト他ノ運賃トハ船積ハ敢テ増減ナキカ如キモ陸車ニ在テハ凡テ二割ヲ昂騰セリ蓋シ鹽積ハ毫モ他ノ雜物ト共
同堆積スルノ融通ナク通常鹽ノミニ限ルヲ以テ自然其ノ増賃ヲ要スト云フ

第九章 小作人ト地主トノ關係

第十章 組合

第十一章 試驗

第十二章 輸出入及試賣

第十三章 鹽田以外ノ製鹽裝置及方法

第十四章 燒鹽

第十五章 再製鹽

右七章當該記事ナシ

第十六章 鹽田ノ地價等

一 鹽田ノ地價、時價、小作料及鹽田ト他ノ土地トノ比較 鹽田反別四町三畝拾九步ニ對スル地價一千四百拾貳圓七拾壹

錢六厘此壹畝步當地價參圓四拾八錢餘ニ相當ス而シテ一畝步ノ時價約拾九圓内外ナリ即チ地價ノ七倍以上トナル是レヲ普

通田畑ニ比較スルニ田一畝步ノ時價拾圓内外畑一畝步ノ時價ハ五圓内外ニシテ大ニ増差ヲ見ル蓋シ鹽田ノ高價ナルハ由來

鹽價ハ常ニ暴騰暴落シ投機的性質ヲ有スルト鹽田希望者ノ多キトニ基因セリ尙ホ鹽田ハ製鹽者一人ノ所有ニ係リ近キ將來

ニ於テ賣買又ハ小作等ニ付スルモノニ非サルモ今假リニ小作ニ付ストセハ貳斗五升入鹽貳千俵此見積價格約六百圓ノ小作

料ヲ收得シ得ヘシト云フ尤モ此場合ニ於テハ地租、公課、鹽田修繕費ノ如キハ地主ノ負擔タルヘキナリ